

乗雲

寺報 第 69 号

H19.6.1 発行
広厳寺

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
振替
00650-4-5381

住職 神田英俊

E メールアドレス
zen@kogonji.jp



花まつり 於広厳寺 H19/4/22

花まつりお稚児さん

永遠の身命と願えども 無常の風にさそわれて
 愛惜みて散れる花なれば 別離の涙頬つたう
 揺れる灯明あの笑顔 あなたに逢えたよるこびと
 深い絆に結ばれた 煌めく慧命忘れ得ん
 〓 新亡精霊供養御和讃〓

梅花流創立五十五周年記念大会にて発表になった新曲です。亡き人の安らかなる冥福を祈り、亡き人に正しく生きていくことをお誓いするものです。

お釈迦さまのお説きになられた「四苦八苦」、その八つの苦しみの一つに「愛別離苦」があります。愛する人、親しい人、大切な人と別れなければならぬ苦しみ、みなやがて別れのときがやってくる。揺れるローソクの明かりに亡き人の面影が偲ばれます。

現永平寺の住職は、百七歳になられる宮崎奕保（えきほ）禅師さまです。檀信徒の信仰生活について、『朝起きて顔を洗ったなら、その足でお仏壇に参りお線香を真っ直ぐに立て姿勢を正して手を合わす。お釈迦さま、道元さま、瑩山さま、ご先祖さまに朝のご挨拶をし、亡き人のご苦労のおかげで今を生きていることに感謝の念をいだし、日々精進することをお誓いすることが大切である』とわかりやすくお話をされております。

お仏壇の前に静かに坐り手を合わせると亡き人の声が聞こえてきます。お線香は心を清め、お灯明は世を照らす智慧の光となり、お花は心なごます。あの人の好きだった食べ物差し上げあの世での幸せを祈る。打ち鳴らす鐘の音は亡き人のみ声となって心に響く。ご供養とは真心を尽くすことです。